

# 宗教者9条の会・大分

39

●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102由布市湯布院町川上3561見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

## 引き金を引く前に

日野詢城

1986年 Chernobyl の原発事故から27年の時を経過したことになります。原発の「平和利用」に疑問を持たなかつたわけではないが、事故のニュースを聞き狼狽したことを見ています。仲間に呼び掛け、原発の仕組みについて学び、「放射能」のことも呼び掛け、原発の仕組みについて学び、「放射能」のことでもありました。2年後の1月に、四国電力の伊方原子力発電所で「出力調整実験」が行われるというニュースが流れました。市民運動の仲間のさもあり、別府のグループなどと実験停止を求める声を挙げ、高松の四電本社ビル前に、四電本社ビル前

の反対行動に加わったりもしてきました。実験の中止を求める集会には1万人を越える人々が集まり、機動隊とのせめぎ合いの中、広場での集会がもたれましたが、実験は強行されました。翌月の、通産省への抗議行動は数万人の規模に膨らみ、並行して進められた「脱原発」署名活動などへ繋がるのです。

### 原子力行政を問う

今も活動を続いている「原子力行政を問い合わせる宗教者9条の会」というものがあります。呼びかけ人の一人に甘蔗珠恵子さんという人がいました。「まだ間にあうのなら」という長い手紙を公開しました。一人の女性の手紙が多く人の心をとらえ、運動とはほぼ無縁な存在であつた人びとに伝わり、若いお母さんたちも声を上げ、集会にも参加するきっかけとなりました。

### 豊かさや快適さは

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動したる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。

今私たちが連想するよう

会の発足準備会段階で賛同者は500名を超えた。準備会の最初の事業と呼べるもののが、92年、通産省・資源エネルギー庁への公開質問状であります。その中に「原子力発電の必要性について」という項目があり、必要性を支えている価値観（私たちの中にある豊かさや快適さ・政府が支持する「活発な経済活動」）の点検を求めるもの・過酷事故への対応・原発労働者の被曝問題・節電のためのサマータイムの実施などが提案され、その後の通産省や科学技術庁との話し合いの結果を「原子力行政は棄民政策だ」と指摘しています。

20年以上前からこうした議論が市民と政府の間で交わされていましたのだ：と。

今私たちが連想するよう

選挙で選ばれたら何をしても良いというのは特権意識だ。

トップが決めるなら議会はいらない。

日本国憲法 第9条  
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動したる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。

れるのは、限られた人の出来事であつたのだと思う。古代から文明と呼ばれるものがあり、埋蔵品などから“富”の豊かさや支配力の大きさなどが歴史として学ばれ、史跡として伝えられます。しかし、多くの民は奴隸かそれに近い存在として“人間扱い”はされていなかつたと考える方が正しいように思えます。地球規模で言えば、今でも豊かさを享受できるのは限られた人びとです。飢餓と貧困に苦しむ人が地球人口の3分の1いると言われていますし、国内でも格差は免れません。

グローバルな関係の中に繰り広げられた高度成長期以降の豊かさや快適さは、限りなく肥大する仕組みをもつことになり、失速すれば墜落するという構造を持つていてるのだと思います。「消費は美德」と呼ばれ、大量生産・大量消費には資源の問題がある。再生可能なもののす。『消費は美德』と呼ばれていた先進国と呼ばれる国は国内文明は発展し続けました。

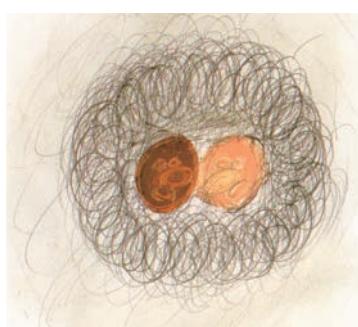
需要が限界だとみれば新たに海外の市場を求める、内外の購買力を伸ばすために常に新しいものが作られ、古物として出ます。資源と言う呼び方で大きいものは価値のないものとして処分されることになります。捨てることがなければ消費は伸びない。その結果、核のゴミ問題だけではなく、産業廃棄物の処理場も満杯。高速道路を走り回る大型トラック、目立つて増えてきたのは産廃の積み荷だと思う。大阪などの都市から地方へ、大分や宮崎へなどというのは珍しくない。満杯になった自治体からまだ余裕のある自治体へのゴミの移動だ。民間の業者がやつているが、ゴミ問題は行政の責任なのだと思います。

工場の機械を稼働するモーター類の消費は微々たるものであろう。窓枠やアルミ缶・アルミニウムは「電気の缶詰」と呼ばれるほどに大量の電気を消耗する。見えない形で電気が消費される製品は沢山あるのだと思う。今の「豊かさ」もコストで捨てられるものも多い。ほとんどの家電製品は一度も修理されることはなく捨てられていく。ゴミとして集められたものを

原料としてリサイクルしてもら、厳重に管理した施設でないと捨てられないものが無限に再利用できるエネルギー・「核の平和利用」という呼び名でスタートした原子力発電。福島の原発事故をうけて壊れた安全神話は再生され、「経済成長には原発は欠かせない」というのが魔の手法である「アベノミクス」。

「抵抗すべきだったのだ。でもどうやつて? / 政府の動きはすばやかつたし、俺には仕事があるし、/ おとなとしたことも多い。/ 他の人たちだつて、/ ごたはごめんだから、/ おとなしくしているんじやないか?」とやり過ぎるうちに茶色党のやつらがやつ

の底までが資源開発の的となり、新たな紛争の種ともなっている。それでも「快適で豊かな生活」をするに大きな問題となつていています。それでも「快適で豊かな生活」をするに大きな問題を持たない、あるいは疑問を持つてもそこから抜け出すことは不可能のようですが、それ以上に煩惱の仕組みというか、人間の欲望の構造の問題があります。仏教では「餓鬼道」として説かれる物語がそれです。欲が満たされる時、満たされた心はすぐに消え、欲望そのものが肥大し、飢餓の心が増幅される”という人間の悲しい性の問題であります。快適さについても同じようことが言えますので、「豊かさや快適さ」と呼んでいいことがあります。出口はないといえます。



引き金を引くことに  
『茶色の朝』というフレンク・バヴロフの小冊子が

て来て、「茶色の朝」を迎えるのです。「面倒なことに関わり合っている暇はない」という理由、言い訳は、同じ質のものでないかと指摘しています。

様々な理由を付けてやり過ごすことが“賛同する”人だとカウントされてしまふことも薄々気づきながらも、私が声を挙げたとしても何かが変わるわけではないのでと…。政治不信や無関心は、強い勢力を持つものに“強い味方”になってしまふのです。賛同した覚えはなくともイエスだとされるのです。安倍首相が豪語するように「悪ければ悪い」と、”選挙でしか意思表示できない個々人”と位置づけられ、思考停止を強いられるような空気があります。そのような状況下にあるが故に選挙での意思表示は大きな力を持ちます。そしてそれを棄権すれば『茶色の朝』の引き金を引くことになります。

## 知っているようで…

### 「アベノミクス」ってなんだ?

安倍首相の  
デフレ対策のこと。

「アベ」と「エコノミクス(経済)」を足した造語で、紙幣を増刷しインフレを起こそうというもの。

### 日銀の金融政策って何?

物の値段が上がり続けるのが「インフレ」です。このとき日銀は世の中に出回るお金の量を減らす金融政策を行います。日銀が持つている国債(国の借金)を民間銀行に売ります。

民間銀行は代金として日銀にお金を払うので、銀行を通じて世の中からお金が吸収されます。

世の中に出回るお金が減ります。そのような状況下にあります。そのため生産や商売を控えるようになります。経済活動が不活発になるので、「インフレ」

が収まる効果が期待されます。

反対に、今のように物の値段が下がり続ける状態が「デフレ」です。

このとき日銀は民間銀行が持つている国債を買い取ります。日銀が代金を払うのでお金を渡すことになり、世の中に出回るお金を増やす効果が期待されます。金融緩和と呼ばれる政策です。金利が下がるので企業はお金を借りやすくなり、経済活動が活発になります。物価が上がるという理屈です。今の「デフレ」に対しても日銀は金融緩和を行っていますが、効果がありません。日銀が民間銀行に大量のお金を供給しても、お金が銀行の手元にとどまっているからです。

景気が悪いのでお金を借りて国内で事業を拡大しようとすると、企業はほとんどありません。賃上げなどで国民の所得を増やし、最大の需要である個人消費を拡大しないと、金融緩和だけで「デフレ」は克服できません。

## 子どもたちへ ～日本国憲法～

掛橋 泰定

國のかたちを決める  
一番大切な“きまり”  
憲法を改正すると  
き、すべてのことを決める立場にあつた天皇は、  
は「私、昭和天皇は、  
この憲法が國民のみんなの意志によって、方  
向づけられたことを心から喜び、正式に議会で  
憲法を改め、新しい憲法を実行することを國  
民のみなさまにお知らせします」と述べています。  
いまにほんの“きまり”は、およそ70年前にあらわ  
界中で多くの國々が争い、アジアでも何百万  
人の人たちが亡くなつた戦争があつて、もう二度とそんなひどいことを繰り返したくないという反省につつてつくられました。

この法が施行されたので、5月3日を國民の祝日とし、憲法記念日といいます。平和を待ち望んでいた

と、お金を貸し借りするときの金利が上がります。企業は銀行からお金を借りにくくなっています。そこで生産や商売を控えるようになります。経済活動が不活発になるので、「インフレ」

が收まる効果が期待されます。

反対に、今のように物の値段が下がり続ける状態が「デフレ」です。

このとき日銀は民間銀行が持つている国債を買い取ります。日銀が代金を払うのでお金を渡すことになり、世の中に出回るお金を増やす効果が期待されます。金融緩和と呼ばれる政策です。金利が下がるので企業はお金を借りやすくなり、経済活動が活発になります。物価が上がるという理屈です。今の「デフレ」に対しても日銀は金融緩和を行っていますが、効果がありません。日銀が民間銀行に大量のお金を供給しても、お金が銀行の手元にとどまっているからです。

景気が悪いのでお金を借りて国内で事業を拡大しようとすると、企業はほとんどありません。賃上げなどで国民の所得を増やし、最大の需要である個人消費を拡大しないと、金融緩和だけで「デフレ」は克服できません。

賃上げなどで国民の所得を増やし、最大の需要である個人消費を拡大しないと、金融緩和だけで「デフレ」は克服できません。

た私たちちは、この法がちゃんと実行されることを大きく喜びと期待をもつて迎えました。

ところがそれからずいぶん時間がたつたので、「この法は古くて役に立たなくなつた。今の時代にあわせて変えよう」という人たちができました。

一番問題にされているのは、第9条の「永久戦争放棄（軍隊をもたない。国と国との争いがあつたと争しない」という条文で

は、久条の「永久戦争放棄（軍隊をもたない。国と国との争いがあつたと争しない」という条文で

ができました。

私たちも一緒になつて戰います。今の条文ではそれはできません」と主張します。

人を傷つけるいじめや体罰は絶対にしてはいけないと言ふ人が、もう片方では武器を持ち、脅し、傷つけ、殺さねば目的を達成しない軍隊は必要だと言うのは、人として悲しいことであります。

憲法が古くて役立たずになつたのではありません。はありますか。

変えたいという人たちは他の国から攻められたらどうするのですか。みなさんは、自分の国なのにアメリカに守つてもらつていて良いのですか。この国を守るためには軍隊が必要です。軍隊を持つてもうみに戦争はしません。普ふ

にゆーす

段は自分の国を守るためにですが、もし仲間が他の軍に攻撃されたり海賊に襲われたり、テロ攻撃されたら私たちも一緒になつて戰います。今の条文ではそれはできません」と主張します。

でも考えてみてください。それでも考へてみてください。

藤谷知道  
長野義人  
長野カヨ子  
永徳光明  
松居実世弘  
宗誠輔  
藤吉文佳  
堤栄三  
渡邊眞理  
高藤秀利

2012年度会費納入者  
(3月7日現在)

宗教者9条の会・大分事務局  
〒879-5102  
由布市湯布院町川上3561 見成寺  
TEL 0977-84-2257  
FAX 0977-84-5203  
年会費 3,000円  
郵便振替口座 01720-1-111731

年会費納入・カンパを  
よろしくお願ひします。

## 編集後記

活気だという。それに追順する形で日本の株価が上昇し、「景気は回復の兆し」と言ふが、消費者は輸入価格の方が気掛かりだ。何もかもが値上がりし、財布の中身は変わらない。

今問われているのは「文明の質」だと秋山さんは指摘する。議会制民主主義の質も問われているのだと思う。一票の重さを忘れていないか、思考停止していないか?「最大の危機は、危機を危機と感じないこと」を思う。(詢)

## 第8回 講演会

とき 4月6日(土曜)  
午後1時30分~4時

会場 コンパルホール  
多目的ホール

入場 無料(カンパ歓迎)



### 1部 秋山豊寛さん講演

#### 文明の質が問われる時代

### 2部 シンポジウム

#### 66年目を迎える日本国憲法

協賛 大分マスコミ9条の会  
赤とんぼ  
後援 大分合同新聞  
主催 宗教者9条の会・大分  
連絡先 0977-84-2257